

第224号 まちのくすりやさん

今回のおはなし

「低音難聴」見逃しに注意

「喫煙とがん/加熱式たばこことがん」



「低音難聴」見逃しに注意

低い音域の聴力だけが急に下がる難聴は、通常の健康診断では調べない音域のため見逃されるケースが少なくありません。ストレスや疲労が引き金とみられ、発症するのは、20～30代の女性が目立ちます。再発を繰り返すリスクも高いです。専門家は、「少しでも違和感があれば早めの精密検査を」と呼びかけています。

関西在住の女性(49)は、数年前に突如、プールで耳に水が入ったような感覚に陥り、小さな声が聞き取りづらくなりました。かかりつけの病院では「中耳炎」と判断され、抗生物質を服用しても改善しないので、発症から1週間が過ぎて別の病院を受診した所、「急性低音障害型感音難聴(低音難聴)」と分かりました。当時の睡眠時間は4～5時間で、発症から数週間後に回復しましたが、現在は体調管理を心がけているそうです。

低音難聴では、「内リンパ」という液体が内耳に過剰にたまり、結果として低い音域の聴力が悪化します。回復後の聴力は良好でも、再発が多く、突発性難聴とは区別されています。

「耳が詰まっている」「耳鳴りがする」などの自覚症状を抱えながら、難聴に気が付かない患者さんは一定数いるといわれています。

症状が改善されず、めまいや吐き気を繰り返すメニエール病に移行する患者さんも相次いでいます。内耳に水がたまる病態は似ており、メニエールの治療と同じように、炎症を抑えるステロイドや利尿薬が使われています。

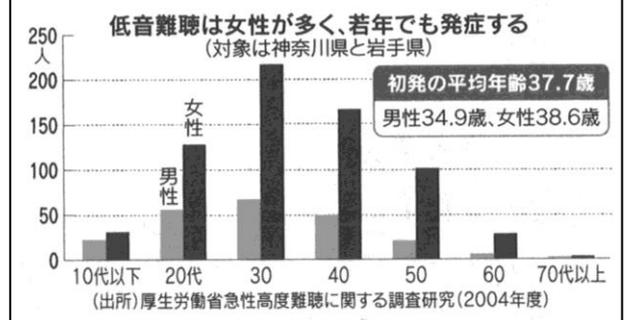
低音難聴は自然治癒する患者さんがいる一方、再発を繰り返し、日常生活に大きな影響を生じる患者さんもいます。京都市の女性(64)は、約20年前に発症し、数年おきに再発してきました。直近は1年おきに発症し、改善に数か月かかることもあったそうです。「耳鳴りがするといらだちの種となり、生活に支障もでている。さらに悪化しないか心配」とこぼしていました。「ストレスをためない」「睡眠を十分とる」などといった生活を心がけることが予防にとって重要です。



「低音難聴」と「突発性難聴」の違い

急性低音障害型感音難聴	突発性難聴
<ul style="list-style-type: none"> • 低音に限って聞こえづらい • 20～30代の患者も目立つ。女性が多い • 繰り返し発症も 	<ul style="list-style-type: none"> • 高音などが聞こえづらい例も • 特に40～60代が多い。性差はない • 再発しない

ともにストレス、疲労、睡眠不足などが誘因(突発性難聴は糖尿病も)



喫煙とがん

たばこの煙の中には、多くの発がん性物質が含まれます。喫煙により、多くの発がん性物質にさらされ体内に取り込まれ DNA の損傷を引き起こし、がんのリスクを高めます。喫煙との因果関係が明らかになっているがんには、肺がん、口腔・咽頭がん、喉頭がん、鼻腔・副鼻腔がん、食道がん、胃がん、肝臓がん、膵臓がん、子宮頸がん、膀胱がんがあります。また、がん患者の喫煙は、生命予後を悪化させること、および二次がんを引き起こしやすくすることもわかっています。

加熱式たばことがん

加熱式たばこの煙に含まれる発がん性物質については、紙巻たばこよりも少ないという報告はあるものの、その一方で、紙巻たばこには含まれない有害化学物質や紙巻たばこよりも多く含む物質があるという指摘もあります。

喫煙を開始してからがん罹患するまでには、20-30年という期間があります。加熱式たばこがわが国で販売を開始し、急速に普及してからまだ10年になりません。現時点では加熱式たばことがんの因果関係は明らかになっておらず、また明らかになるまでには時間がかかると見込まれます。

「たばことがん」についてさらに詳しく知りたい人は、国立がん研究センターがん情報サービスの関連ページもあわせてご覧ください。



インフルエンザの潜伏期間は1～4日、発症後の感染力は発症前日から5～7日間続きます。学校や職場を休む目安は、発症後5日間かつ解熱後2日間(幼児は3日間)であり、この期間をしっかりと守ることが周囲への感染拡大を防ぐために重要です。

(一社) 浦安市薬剤師会

〒279-0004 浦安市猫実1-2-5 健康センター内

Tel 047-355-6812 (月～金: 10～15時)

Fax 047-355-6810

メールアドレス yaku_ura_t@urayaku.jp

ホームページ <https://www.urayaku.jp/>